

経済・政策・法律



キーワード：教育、労働、人事

教育の労働市場効果

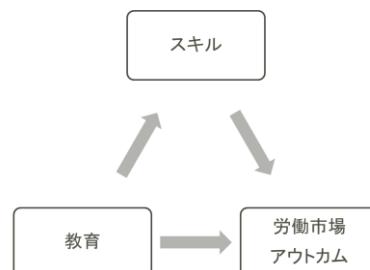
経済学部 経済学科 教授
平尾 智隆 HIRAO Tomotaka

研究の内容

教育の労働市場における効果とは、ある教育を受けた者がそうでない者より平均的に賃金や待遇などの労働市場アウトカムが良いかどうかを検証することです。1990年代後半まで、日本では教育は経済学の主要な研究対象ではありませんでしたが、近年ではEBPM（Evidence Based Policy Making）の流れの中で、重要な研究領域となっています。教育が効果を持たないというショッキングな結果も含めて、考えていく必要があります。また、教育によって獲得したスキルを十分に使用して働いているかどうかも労働市場政策や人的資源管理においては重要な事柄になります。仮に個人が教育によって獲得したスキルが社会において十分に活用されていなければ、それは社会的な、組織的な、個人的なロスにつながっていきます。このロスが大きすぎれば社会的、組織的な発展が阻害されるので、なぜミスマッチが発生し、どのように解決していくべきか考えていく必要があります。教育予算の制約、高学歴化、少子高齢化、これらの相反する流れの中で生起してくる問題は、教育と仕事の選別です。何を残しどう変革するのかが問われていると言えます。



著書:『教育効果の実証』



イメージ:教育の労働市場効果

産学連携・社会連携へのアピールポイント

教育を受けること、働くこと、そして、組織の中で様々な仕事を経験することは、現代社会に生きる我々にとって、ほぼ避けて通れない出来事です。しかし、どのような教育を受ければキャリア形成に役立つか、組織は従業員のスキルを有効活用できているのか、これらの疑問は科学的に十分に明らかにされることなく、様々な政策や実践が行われています。経験や勘に頼りがちな教育、労働、人事の意思決定について希望の持てる示唆を統計的に探っていきたいと考えています。

平尾研究室

URL : <https://researchmap.jp/read0195712>

